

不知火「海」の火まつり

記録的猛暑が続いた今年の夏、宇城市内最後の祭り「不知火「海」の火まつり」が盛大に行われました。

地域あげての一大イベント、熊本を代表する「火」の祭りを写真とともに振り返ります…。



8月30日夕方から31日にかけて、故事にちなむ恒例の「不知火「海」の火まつり」が永尾（えいのう）神社周辺と天の平農村広場でありました。
このまつりは、日本書紀に記されている景行天皇九州巡幸の折の「不知火伝説」に由来するイベントで、毎年、八代海（不知火海）に神秘の火「不知火」が現れる旧暦の8月1日（八朔）に開催されています。
景行天皇にふんじた阿曾田清市長らを乗せた巡幸船が、永尾神社の海中鳥居に姿を現すと、海岸から火の矢が一斉に放たれ、海上に掲げたか

がり火に点火。海辺が照らされる中、古代装束姿の約50人が船を出迎え、農村広場までたいまつを手練り歩きました。
広場の特設舞台では、江戸時代の街頭芸、永尾（えいのう）ちよぼくれが披露され、総踊りや熊本お笑い道場による先笑ライブ、竜灯太鼓演奏なども行われました。
空と海で二重に光る海上花火では、光が海上の鳥居を神秘的に照らしだし、多くの見物客を魅了しました。

